

令和 4 年度

IT活用による

「認知症検知に関するサービス開発」ワーキング

活動のご紹介

取得したデータを

専門機関と連携し認知症サポート事業につなげる



プロダクト開発室
営業企画 グループ 主査

内田 郁文



1992～ ネットワーク機器営業
2000～ 組込みソリューション営業
2016～ 新規市場開拓
2020～ チャネル・フィールド開拓

趣味：ランニング

当社ができることは何か？

誰もが簡単に操作できる仕組み

ICカードをセットしてボタンを押す

気が向いたときに

ボタンを押す

支援者が安否確認

異常を検知・感じたら

連絡・訪問する



認知症予知に活用できるのではないか？

認知症支援事業と当社の共通課題は何か？

共通課題	認知症支援事業	当社
先端サービスとの連携	対象者との接点機会	データの利活用
福祉のDX推進	IT活用の予算、不得手	先進的支援者との出会い

1. 日常生活行動データを獲得するためのサービスアイデア創出
自ら利用したくなる日常行動を促すサービス開発が最大の課題
2. ビジネスモデルの創出
有償サービスとして成り立つビジネスモデルの設計
3. 取得したデータの活用案の検討
誰もが容易に状態把握できる機能の検討、公的データ基盤との連携

2022年時点の単身世帯状況

京都府は
単身世帯数：49万世帯
うち65歳以上
15万世帯（30%）

2040年：40% ← 予備群

これは二人以上の世帯の値(2.2%)や諸外国の単独世帯(アメリカ:1.6%、ドイツ:3.7%、スウェーデン:1.7%)と比較すると高い水準である。単独世帯の増加は、頼りにできる存在が身近におらず、社会的に孤立してしまう人の増加にもつながると考えられる。

Day6 : 成果報告

課題 : なし

行動 : アイディアワークのイタレーションから最終案をまとめる

Day5 : ビジネスモデルのイタレーション

課題 : 各ステークホルダーの価値が関連するか

行動 : アイディアワークのイタレーションから最終案をまとめる

Day4 : フィールドワーク

課題 : 十分なアンケート数を獲得できるか

行動 : 当事者にアンケートを実施し調査実績を可視化する

Day3 : ビジネスモデルの検討

課題 : ビジネスとして成り立つ

行動 : フレームワークを利用してアイデアを整理し可視化

Day2 : システムコンセプトの開発

課題 : 誰の何を解決すれば普段利用する価値が創出できるか

行動 : 問題定義とサービスアイデアソンによってシステム検討

Day1 : 共有・共感

課題 : 各社の思感を目的統合できるか

行動 : テーマの共感から目的の統合によってシステムの骨格を設定

京都モデルへの昇華

期限 : 2024年3月末

課題 : 事業主体、パテントなどビジネススキームの構築

行動 : 社会実装に向けた体制づくりの検討

プロトタイプシステムによる市場調査

期限 : 2023年12月末

課題 : なし

行動 : プロタイプシステムによる市場調査を通じて収益性や将来性を検証し、プロモーション方法などのマーケティング計画を決定する。

PoCのための資金調達

期限 : 2023年8月末

課題 : 助成金を獲得するための体制づくり

行動 : サービス仕様の実証経費を獲得するための助成金申請を行う

システムのアイデアワーク

期限 : 2022年3月末

課題 : 日常データを取得するためのサービス開発

行動 : 目的への共感を踏まえて日常データを収集するためのサービスモデルを創造する。

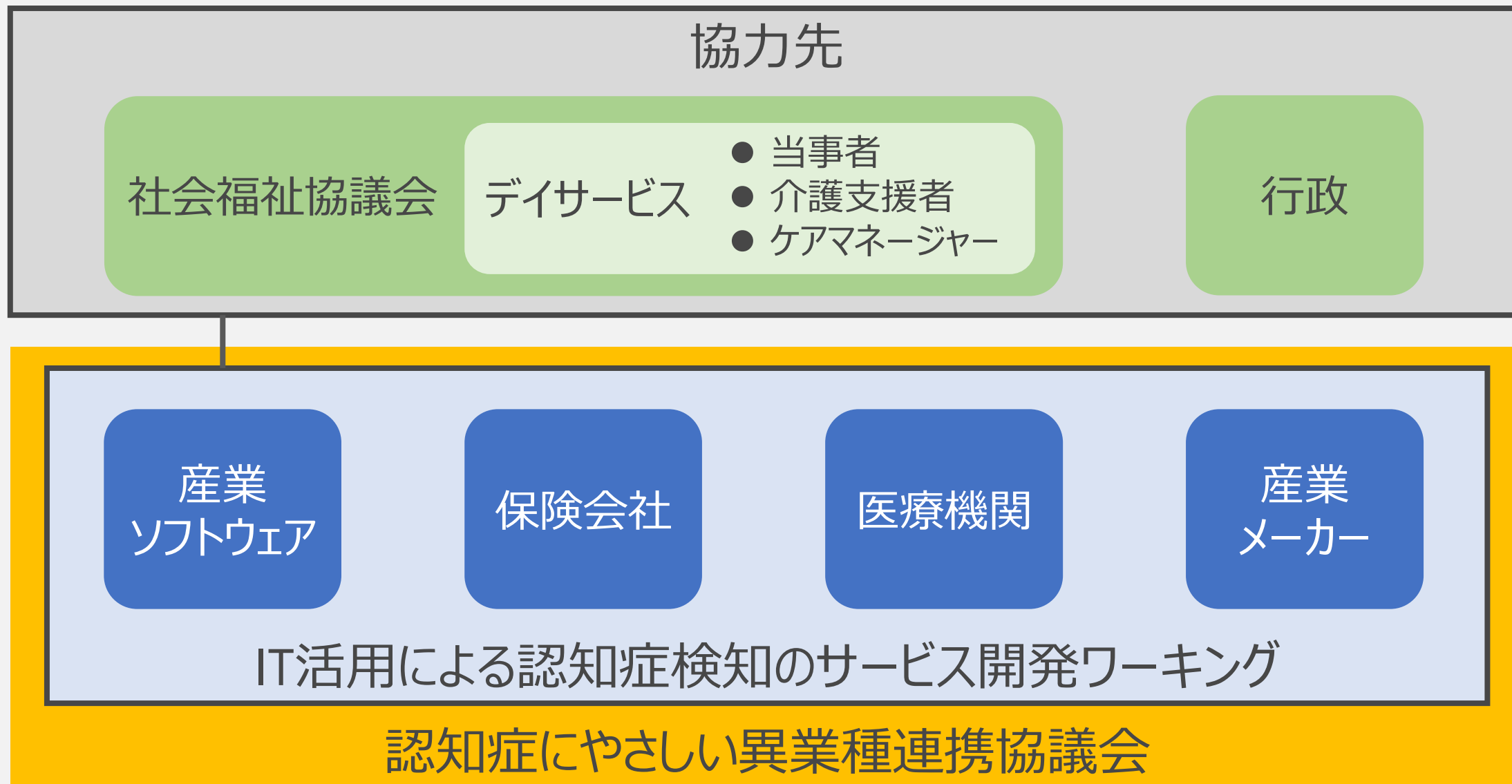
第1ステップ

第2ステップ

第3ステップ

第4ステップ

事前勉強会	2022/11/9	有識者からのインプット
Day1	2023/1/30	方向性の認識合わせ、問題定義
Day2	2023/2/8	サービスアイディアの発散
Day3	2023/2/14	ユーザーニーズとビジネスモデル
Day4	2023/2/22	イタレーション
Day5	2023/3/6	フィールドワーク
Day6	2023/3/22	事務局への報告・評価



認知症検知にご興味あれば共創をご検討
ください！

実証やインタビューにご協力いただける
フィールドを探しています！



ポータルサイト



Thank you !
